

# 近所に泊まろう！ 地域ホームステイ

ふれあいから始まる地域ホームステイ  
～明るい豊かな札幌にむけて～

2010年度 社団法人札幌青年会議所  
子どもの心育成委員会  
モデル事業参考アクションプログラム

# 目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
地域ホームステイのねらい（実施するまでの流れ）・・・・・・・・	3
プログラム内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
1 地域ホームステイの概要・・・・・・・・・・	5
(1) 活動のねらい	
(2) 主な活動内容・方法（位置付け・期間等）	
(3) 体制等の工夫	
(4) 活動の成果等	
2 実施に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
(1) 実行委員会設置	
(2) 目的の確認	
(3) 地域協力者との調整	
(4) 参加者募集・決定	
(5) 事前説明会開催	
(6) 実行委員会開催	
3 実施に向けての工夫・・・・・・・・・・	8
(1) 児童の受入れ先（仮親）	
(2) ボランティアの確保	
(3) 学校・教育委員会・PTA協議会/実施区PTA協議会/協力依頼	
(4) プログラムの作成（札幌青年会議所プログラム参照）	
(5) 登下校の方法	
4 プログラム作成の留意点・・・・・・・・・・	11
5 安全面への対策・・・・・・・・・・	12

# 近所に泊まろう！地域ホームステイ

ふれあいから始まる地域ホームステイ  
～明るい豊かな札幌にむけて～

## はじめに

近年、都市の拡大や核家族化、少子化の進行によって、地域や家庭において教育の低下、連帯感の薄れや子どもたちの社会性の不足規範意識の低下など様々な問題が指摘されており、これからの社会では地域全体が子育てを支援するよう地域住民の意識を醸成することが大切だと考えられます。

このような趣旨に基づき、自分の子どもだけではなく、地域の子どもたちを地域で共に育むアクションプログラム、近所に泊まろう『地域ホームステイ』を波及していくために本事業の概要をまとめました。

地域の大人たちと子どもたちのふれあいの場を創出する事で子どもの自主自立を育むとともに、地域の連帯感の向上に繋がります。本書のアクションプログラムを活かし地域性に合った独自のプログラムをつくって開催してみてください。

注) このマニュアルは誰でも行えるよう一般向けとなっているため、誰が主催者かの位置づけはしておりません。

## 地域ホームステイのねらい

地域ホームステイの狙いは、現代の物質的な豊かさや便利さの中で、親に依存して暮らす子どもたちに仮親さん宅での共同生活の機会を与え、衣・食・住といった生活体験を通じて『互いの立場や役割を理解し、協力し合う心を育むこと』や『日常生活に必要な生活習慣を習得すること』にあります。また、家庭地域のコミュニティの低下が指摘されている現状を踏まえ、子どもたちの活動を支援する立場で地域の大人たちの参画を促し、大人たちの意識の変革を期待して実施していきます。

### 実施するまでの流れ

実行委員会の立ち上げ

実行委員会での事業内容の検討

ボランティアの募集

PTA協議会・学校との打ち合わせ

事業計画書作成・開催案内配布

ホームステイ仮親登録開始

ホームステイ参加児童の募集開始

仮親・保護者説明会の開催

仮親・児童の顔合わせ

ホームステイ実施 1日目・2日目・3日目

オリエンテーション

## 「プログラム」 内容

### I. 事前調査・児童グループ編成

「地域ホームステイ」と題し、子どもたちの活動を支援する立場で地域の大人たちの参画を促し、地域の仮親・ホームステイに参加する児童で構成いたします。

### II. 児童の目標

児童は生活計画表を立て、ホームステイ先での目標を常に意識しながら生活してもらいます。

### III. 対面式・引渡し「児童と仮親」

児童と仮親が初めて対面する場面では、コミュニケーションを深めるためオリエンテーションを行ないます。

### IV. ホームステイ

お世話になる仮親との交流やふれあいから感謝の気持ちを育み、仮親との生活を通し児童の自立性や社会性を学んでいただきます。また、仮親とのふれあいの場で、参加児童が心に残った思い出の写真を撮るなど工夫を取入れてみます。

### V. オリエンテーション「子どもたちへの作文依頼」

児童がホームステイに参加し、感じたことや学んだことを作文にさせていただきます。

### VI. オリエンテーション「保護者へのアンケート依頼」

保護者に、アンケートを渡し、ホームステイ前と、ホームステイ後の児童の成長などを感じていただきます。

### VII. 生活習慣の振り返り

実際に体験した生活を振り返り、児童と保護者が話し合いを通し子どもの生活習慣や子どもの成長を再確認する機会を創出させていただきます。

## 地域ホームステイの概要

### (1) 活動のねらい

- ・登校日に自宅以外の仮親の家庭で2泊3日にわたって生活し、多くの異なった生活の仕方があることを実際に体験として学ぶ。
- ・体験活動を通して自ら考え生活していく自立心や礼儀作法、思いやりの心、自制心を身に付けさせる機会とする。
- ・仮親との交流により、生き方や生活していく上での知恵を育む機会とする。
- ・家庭や地域がこの事業を通し、人と人との繋がりにより地域の信頼関係・人間関係を構築する機会とする。
- ・PTA・自治会・ボランティア団体等が協働することにより、地域コミュニティのネットワークの拡大を図り『地域の子どもは地域で育む』機運を高める。
- ・親にとって、子離れを体験するこの期間を自らの家庭教育を見直す機会とする。

### (2) 主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

- ・児童参加による学校、PTA・家庭・地域3者連携による宿泊体験活動。
- ・期間は最低2泊3日以上を推奨。
- ・仮親募集の案内状は地区全戸に配布。

（まちづくりセンターの回覧BOXを使用すると良い）

- ・事前活動において、生活表・生活マナー表・目標・自己紹介表の作成。

（運営様式を参考）

- ・ホームステイ中の子どもたちと仮親の編成と持ち物の指導。
- ・仮親さん事前説明会の開催。

（開催場所を地区センター、まちづくりセンターにすると参加しやすくなります）

### (3) 体制等の工夫

- ・3者組織（学校・家庭・地域）ホームステイ実行委員会を核に実施要項の検討  
対面式、オリエンテーション等を運営する。

### (4) 活動の成果等

- ・生活上の自立に必要な知識や生活習慣が一層身に付いた。
- ・親と仮親双方がしつけを見直す機会となった。

等々

## 実施に向けて

### （１）実行委員会設置

- ・ P T A ・ 連合町内会 ・ 自治会 ・ 子ども会 ・ オヤジの会などの主要メンバーによる実行委員会を立ち上げます。
  - ・ 地域の子育て支援の意識醸成「みんなで子育て」意識の啓発。
- ※地域ホームステイについて共通理解を深め、運営組織を固めます。

### （２）目的の確認

- ・ 活動を通じて何を得てもらいたいのか協議します。
- ・ 子ども ・ 地域社会 ・ 家庭に関する目的の確認。
- ・ それぞれの目的について共通認識を持つように致します。

### （３）地域協力者との調整

- ・ 地域において協力が得られる方々、仮親受入れ先を整理します。
- ・ 開催時期（他の学校行事との調整など）受入世帯、参加対象（学年）スケジュール実施期間などを整理します。
- ・ 事業計画・プログラムの立案にあたっては、事前に学校、連合町内会、教育委員会関係機関に連絡して協力を依頼します。

### （４）参加者募集・決定

【事業計画・プログラムが作成できたら、参加者を募集します。】

- ・ 学校 ・ 地域 ・ P T A の広報誌を通じて参加者を募ります。当日のボランティアスタッフも併せて募集しても良いでしょう。（地域の防犯パトロール・民生委員・青少年健全委員会等）希望者が多い時には、場合によっては抽選による参加児童の制限をする必要もあります。その際には不公平のないように例えば公開による抽選会をするなど配慮が必要となります。

#### (5) 事前説明会開催

【参加者が決定したら、児童及び保護者を対象とした事前説明会を開催します。】

- ・事前説明会では、事業の趣旨を児童・保護者・仮親に再度説明し、協力を求めます。
- ・当日のボランティアスタッフ、実行委員の事前打ち合わせも併せて実施することで意思統一を図ります。

#### (6) 実行委員会開催

【地域ホームステイ後、反省会、オリエンテーションとして開催します。】

- ・参加児童、保護者、仮親、実行委員からアンケートをとり、事業計画等について振り返り来年度以降に向けての参考にすることが考えられます。
- ・事業費の検証と報告を行います。その際には、来年度以降の継続的な実施のためにも経費の見直しについて協議します。
- ・お世話になった仮親には、継続的に受け入れていただけるかその旨を伝えます。



## 実施に向けての工夫

### (1) 児童の受入れ先（仮親）

実施に向けて一番の課題となるのが児童の受入れ先です。受け入れ先については、地域学校児童保護者・地域ボランティア・地域老人連合会が想定されますが、このほかにもPTAを含めて検討する必要があります。

※登下校の問題などが生じてきますが、これらについては下記により対処することが可能です。

#### ①⇒地域ボランティア、保護者（協力者）による登下校

このほかの課題にも工夫次第で対応できることがあります。地域ホームステイは、地域のみんなで作り上げるところに意義がありますので「どうしたら可能か」を考える機会としていただきたいと考えています。

### (2) ボランティアの確保

地域ホームステイは「平日の宿泊」をすることになるため、宿泊先から児童が登下校の際に担当する人員に大きな負担がかかりますが、役割分担を平準化することで特定の人に負担をかけないようにする配慮が必要です。実行委員会のスタッフ及びボランティアの役割分担をタイムテーブルとともにまとめ平準化するようにします。

#### 〈参考〉

ボランティアの例	協力をいただいていることの例
PTA、子ども会、青少年健全育成会 オヤジの会、老人会、女性の会	実行委員会の中心として、またはコーディネーターとして様々な場面で活躍
連合町内会・自治会	地域の様々な方々へのボランティアとしての協力依頼などで活躍
社会福祉協議会(地区社協)	民生委員・児童委員など地域でボランティア活動をしている方々に登下校時などで協力
町内会	地域の防犯パトロール・スクールガード

### （３）学校・教育委員会・ＰＴＡ協議会（実施区ＰＴＡ協議会）への協力依頼

この取組みは「平日」に実施され、子どもたちは仮親世帯を拠点に学校へ登校して普段どおりの学校生活を送ります。このため、実施にあたっては「学校側の理解を得ること」が重要になりますので、実施計画を作成する前の段階で話し合いの場を持つ必要があります。学校の理解・協力を得ることができれば、参加募集・アンケートなどが実施しやすくなります。

また、教育委員会・ＰＴＡ協議会に協力を得ることも取組みを進めるうえで重要になってきます。教育委員会には地域の教育情報が集約されているので、地域の人材・施設活動プログラムなどの情報を得ることが可能です。

地域ホームステイの目的は地域コミュニティの重要性を認識いただくことです。

地域住民、学校、教育委員会等の協働により実施されるのが理想的であると考えております。

### （４）プログラムの作成（札幌青年会議所プログラム参照）

地域性を活かしプログラムを工夫します。全体のプログラムを作成するにあたっては以下の点に配慮していただきたいと考えています。

- ・子どもたちが主体的に活動できるプログラム
- ・子どもたちへの関わり方についての大人の共通認識
- ・保護者への家庭教育を見直す機会

地域ホームステイでは、親への依存などから離れることで子どもたち自身が異なった共同生活の中から自発的な活動を促す内容となるよう配慮しなければなりません。

（子どもを「お客さん」として迎えるものではありません。）

そのためにも大人の子どもの関わり方についてスタッフ内で共通認識を持つ必要があります。「過干渉・過保護的な関わり」ではなく、「子どもの自主性・自発性を伸す関わり」で子どもたちに接するようしていただきたいと考えています。またこの機会に保護者を対象として家庭教育に関するプログラムを設定することも考えられます。同じ年頃の子どもの持つ親同士が集まり話し合いの場を持つことで、自らの家庭教育を見直す機会とすることが期待できます。

#### （５）登下校の方法

- ・この取組みでは子どもたちに、普段の通学路とは異なる経路で登下校することになります。集団登下校をする場合も多いと思いますが、その際には、地域の方々に“付き添い”をお願いするのがいいでしょう。
- ・防犯ボランティアやスクールガードの方々などに協力をお願いすると良いでしょう。
- ・学年によって終業時間が異なる場合もありますので、事前に学校と下校について協議しておく必要があります。いずれにしても、事前に通学路（経路）や危険箇所、不審者情報等についても確認しておく必要があります。

## プログラム作成の留意点

- ・異年齢での交流が図られるよう配慮する。
- ・地域ボランティア活動へ目を向ける機会を設ける。
- ・学校での授業に支障が出ないよう配慮する。

（欲張らずゆとりのある日程とする）

### 【子どもへの関わり方】

- ・「基本的なことは教えて」その後は「任せて見守る」といった段階的指導を行う
- ・子どもたちに役割を与え、やり遂げる機会を与える
- ・子どもたちの自発的な行動を必要以上に抑制しない
- ・子どもからのわがままな要求を容易に受容しない
- ・ルールに反する行動や危険な行動をした時にはきちんと叱る
- ・頑張った子どもに対しては褒める

\*事前に保護者の子育てに関する要望も聞き取り調査致します。

## 安全面への対策

取組みを成功させるためには事故等が起こらないことが第一ですので、そのための準備には万全を期す必要があります。実施する上での危険箇所を挙げ、それらへの対処法を検討します。

- ・登下校時の交通安全・不審者対策

⇒集団登下校、付添い人の配置、声掛け運動など

- ・健康管理

⇒参加者の健康状態、持病（ぜんそくなど）の聞き取りなど、事前に保護者から留意事項を提出してもらうのが良いでしょう。

⇒【食事・ペット】などのアレルギーに関しては事前に保護者から聞き取り調査をしておくのが良いでしょう。

- ・登下校の危険箇所

⇒事前に危険地域を確認して改善できる箇所については実施前に対応しておきます。

参加者の事前研修（保護者説明会）の際に注意事項を周知できるよう、下調べが必要になります。また、子どもたちは普段経験することのない共同生活の中で、想定外の事故等が起こってしまう可能性もありますので最低限の備えが必要となります。

- ・保険への加入

⇒傷害保険への加入に加え、万が一の場合に備えて損害賠償保険にも加入しておきましょう。  
(子ども・ボランティアとも)

- ・緊急連絡網の整備

⇒参加者（保護者）、学校・教育委員会などの関係機関のほか、警察・救急病院などのリストを作成しておきます。

警察・病院などには事前に協力依頼しておくのが良いでしょう。

以上を通じて、地域コミュニティにおける子育て機能の総合的なシステム構築を目指します。地域における子ども・家庭・子育て支援等の現状を把握し、どのようなニーズや素材があり、何を整備すべきかを明らかにします。そのうえで、地域の実情に応じた「子どもを育む地域システム」として地域の子育てに関わる諸団体がそれぞれ持つ機能・情報等（強み）を地域全体のものとして共有し、それぞれの不足するもの（弱み）を補完しながら地域における子育て支援機能を発揮させます。

地域ホームステイ  
アクションプログラム

ふれあいから繋がる地域ホームステイ  
～明るい豊かな札幌にむけて～

発行日 平成22年11月1日

発行・編集・製作  
2010年度 社団法人札幌青年会議所  
子どもの心育成委員会

〒060-0001  
札幌市中央区北1条西2丁目北海道  
経済センタービル9F  
社団法人札幌青年会議所  
電話011-241-3402

印刷・製本  
株式会社プランニングホッコー

本書の無断複製転載を禁じます